国際物流戦略チーム

東北国際物流戦略チームの概要

別紙１

Ministry of Land, Infrastructure and Transport

■ 県境を越えた広域連携、輸送モード連携により、東北地域に広範に立地する輸出入産業（一次産業含む）に、域内港湾・空港を主とした物流経路・手法の選択肢を提供、域内港湾・空港の利用を促進し、**効率的な国際物流の実現**を図る。

■国際物流環境における東北の競争力向上により、地域産業の育成・新たな産業の誘致など**地域の活性化**につなげる。

これまでの経緯

○平成17年11月、総合物流施策大綱（2005～2009）閣議決定。
主要港湾・空港毎に**国際物流戦略チームを構成**して地域の実情を踏まえた施策を実施することが適当、とした。

○東北経済連合会が、国際物流の今日的課題抽出のため平成18年7月に**戦略的国際物流検討委員会**を設立。

○平成19年3月、委員会検討結果「東北における戦略的国際物流体系の構築に向けて」を報告。官民が取り組むべき事項とそのための体制として**国際物流戦略チームの設立**を提言。

○平成19年8月、（社）東北経済連合会、東北地方整備局、東北運輸局を事務局として、産・官・学の有識者により**東北国際物流戦略チームを設立、第1回本部会**を開催。

現状と課題

○東北7県の経済力は欧州中規模国に匹敵し、域内で生産消費する貨物量も多量。

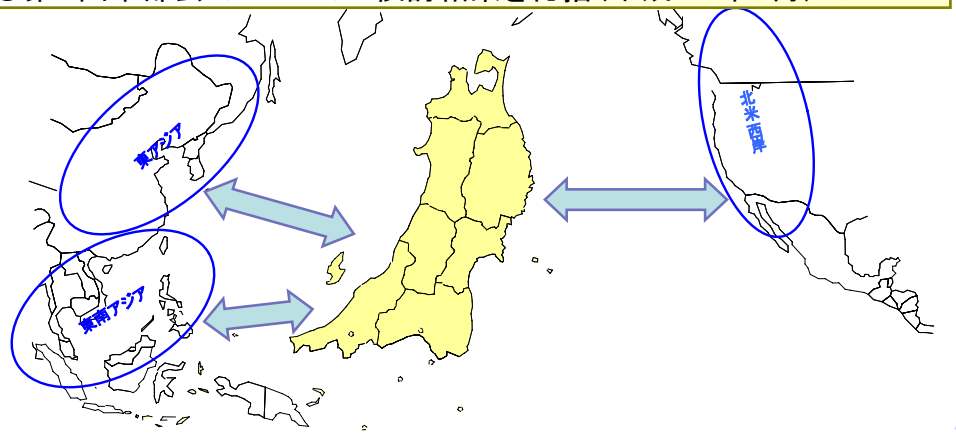
○域内で生産消費する外貿コンテナ貨物の利用港湾の54%（6県では64%）が京浜等の域外港湾。全国的に見ても低水準。

○国際物流における非効率は域内企業等の物流コスト増大、域内企業等のビジネス機会の喪失をもたらす。

今年度の取組

○平成19年8月開催の第1回本部会合において**関係機関間の認識共有及び補強と、これをもとにした国際物流施策の具体化**

○LCL（小口混載）輸出支援
○インランド・デポ（内陸国際物流拠点）の設置・活用
○効果的なポートセールスの促進
を検討事項として
○戦略チームWGの設置による具体的個別検討（平成19年11月～平成20年3月）
○第2回本部会で3WGでの検討結果を総括（平成20年3月）



東北地方の地理的特性を踏まえた検討を行う

All Rights Reserved, Copyright (c) MLIT, Japan